

令和6年度 かほく市立河北台中学校 学校評価計画書

重点目標	具体的取組	主担当	現 状	評価の観点	達成度判断基準 C又はDの場合、再検討	備考
1 学力向上に向けた取組の充実	① 校内研究会の充実 ・「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた研究及び実践★ ・生徒指導の4つの視点を重視したわかる授業の実践	研究主任 学習研究委員会	・ 個別最適な学びの共通理解を図る必要がある。提案授業や要請訪問を通して共通実践を進める。 ・ 生徒の実態に合った授業づくりに、より邁進していかなければならない。	【努力指標】教職員 生徒の様々な考えを引き出したり、思考を深めたりするような発問・指導をしている	A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満	
				【満足度指標】生徒 授業は分かりやすい	A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満	
				【成果指標】生徒 授業では、互いの考えを出し合い、話し合う活動を通じて、自分の考えが深まっている	A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満	
	② 1人1台端末の積極的・効果的な利活用 ・ 教科における学びを深める活用	学習指導部	・ 各教科において積極的に活用し、授業実践をしている。	【努力指標】教職員 授業の中で、ICTの効果的な活用を工夫している。	A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満	
				【努力指標】教職員 授業の中で生徒を見取り、具体的な支援や更に伸びる働きかけをしている	A:100% B:90%以上 C:80%以上 D:80%未満	
				【満足度指標】生徒 授業では課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる（R7県目標値95%）	A:90% B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満	
	③ 学力調査の有効活用 ・ 学力調査結果を分析し、学力向上プランに基づく指導の徹底と検証 ・ 評価問題の有効活用	教務 教科代表	・ 活用問題を利用した授業づくりが進められてきている。	【努力指標】教職員 学力向上ロードマップや学力向上プラン、学校評価に基づく指導をしている	A:100% B:90%以上 C:80%以上 D:80%未満	
				【成果指標】生徒 授業では、「自分と同じ(違う)」「なぜだろう」「その根拠は？」など考えながら聞いている	A:80% B:75%以上 C:70%以上 D:70%未満	
				【努力指標】教職員 授業の最後に「まとめ・振り返り」「適用・活用」を意識して行っている	A:100% B:90%以上 C:80%以上 D:80%未満	
	④ キャリア教育の視点を重視した取組推進 ・ 将来の夢や希望を持つことができる指導の工夫 ・ 総合的な学習の時間の指導の工夫	総合担当 学年会	・ 総合の時間を工夫し、キャリア教育の充実を図っていかなければならない。	【努力指標】教職員 将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導をしている	A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満	
				【満足度指標】生徒 将来の夢や目標を持っている	A:80%以上 B:75%以上 C:70%以上 D:70%未満	

令和6年度 かほく市立河北台中学校 学校評価計画書

重点目標	具体的取組	主担当	現 状	評価の観点	達成度判断基準 C又はDの場合、再検討	備考	
2 自己指導能力の育成を目指す生徒指導	① 基本的な生活習慣を高める指導の徹底 ・ 自然な挨拶、清掃、ベル学等の行動(生徒会や学年プロ委の活動の活性化により充実を図る)	生徒指導部 学年主任	・ 毎月の生活目標や学習目標を生徒会、各委員会、各学年の目標と連携していく。	【成果指標】生徒 清掃活動に時間いっぱい取り組んでいる	A:100% B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満		
		生徒指導部 生徒指導委員会	・ 朝学習や給食など、学年全体で指導する体制ができてきた。今後も学年全体で生徒を観ていく。	【成果指標】生徒 学校や家庭・地域でしっかりと挨拶や会釈ができている	A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満		
	② 生徒指導の機能等を生かした、生徒一人一人の自己指導能力の育成 ・ 特別活動や帰りホーム等を活用した体制づくり ・ 学級内の対人関係や集団活動・生活をする際のルールづくりや生徒相互に認め合うリレーションづくり	生徒指導部 生徒指導委員会	・ 朝学習や給食など、学年全体で指導する体制ができてきた。今後も学年全体で生徒を観ていく。	【成果指標】教職員 学年担当全員で生徒を育てていく体制ができてきている	A:100% B:90%以上 C:80%以上 D:80%未満		
			・ サポートアンケートをはじめ、生徒観察を行っていく。	【満足度指標】生徒 学校へ行くのは楽しい	A:100% B:90%以上 C:80%以上 D:80%未満		
③ いじめ・不登校への適切な対応と教育相談の充実★ ・ 日々の見取り、毎月のアンケート調査や教育相談を活用した生徒の悩み等に組織で対応 ・ 生徒理解に基づく予防的・開発的生徒指導によるいじめ・不登校等の未然防止、早期発見、早期対応 ・ SC、教育相談員、関係機関等と連携した教育相談体制の充実 校内教育支援センター「Sルーム」の整備	生徒指導部 生徒指導委員会・教育相談部会	・ サポートアンケートをはじめ、生徒観察を行っていく。	【成果指標】生徒 いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う	A:100% B:90%以上 C:80%以上 D:80%未満			
		・ 不登校(傾向)生徒の割合が高い。教育相談体制の充実を図り、新たな不登校生徒を出さないよう取り組んでいく。 ・ 学校生活のあらゆる場面で生徒のよさを認め・褒め・励ましていく。	【努力指標】教職員 いじめや不登校傾向等がないか、生徒観察と理解に努めている	A:90%以上 B:85%以上 C:80%以上 D:80%未満			
④ 組織的な特別支援教育の推進 ★ ・ 学校全体で組織的計画的な支援を進めるための校内支援体制の充実 ・ 個別の教育支援計画、個別の指導計画等に基づく指導・支援の充実	生徒指導部 特支コ	・ 生徒理解研修をもとに配慮が必要な生徒をまとめ、職員会・校内研で確認し学校全体で共有する。	【努力指標】教職員 特別な配慮が必要な生徒の共通理解を図り、個に応じた指導・支援に努めている	A:100% B:90%以上 C:80%以上 D:80%未満			
			・ 生徒理解研修をもとに配慮が必要な生徒をまとめ、職員会・校内研で確認し学校全体で共有する。	【満足度指標】保護者 学校は、お子様をよく理解し、指導している	A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満		

令和6年度 かほく市立河北台中学校 学校評価計画書

重点目標	具体的取組	主担当	現 状	評価の観点	達成度判断基準 C又はDの場合、再検討	備考
3 信頼される学校づくり	① コミュニティー・スクール制度の積極的な活用 ・ 外部人材の有効活用 ・ PTAや生徒会と連携したボランティア活動の実施	教務 学年主任 生徒会	・ 必要に応じて外部人材が有効に生かされている。今後も活用していく。	【成果指標】教職員 様々な体験活動において、外部人材が有効活用されている	A:100% B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満	
				【満足度指標】生徒 授業や行事で専門家の人の話や活動は、より勉強になる	A:90%以上 B:85%以上 C:80%以上 D:80%未満	
	② 積極的な情報発信と学校公開 ・ ホームページや学校だより等の充実 ・ 校区内の小学校への出前授業や学習掲示等の情報発信 ・ 新聞等の投稿を活用した豊かな心の育成	教務 学年主任	・ 学年や学級の便りは原則共通での配信をしていく。	【努力指標】教職員 学校だよりやホームページ等で、教育活動や生徒の姿を発信している	A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満	
				【成果指標】保護者 学校からの便りやHPで学校の指導方針や子ども達の様子などがわかりやすく伝わってくる	A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満	
	③ 小中連携の推進 ・ 校区の小学校との授業参観 ・ 小中9年間を見通した共通取組の推進	教務 生徒会	・ 家庭学習週間を小中で共通して実施をし、家庭での学習習慣の定着を図っていく。	【努力指標】教職員 学校は小中連携を積極的に進めている	A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満	
				【成果指標】生徒 自分で計画を立てて勉強している	A:80%以上 B:75%以上 C:70%以上 D:70%未満	
4 人材育成と教育の質を高める働き方改革の推進	① 若手ミドルリーダーの育成の計画的実践 ・ 若手教員をメンターとした若手研修会の実施 ・ OJT等を通じた人材育成	教頭 学校評価委員会	・ 若手のニーズに合わせて研修会を計画的に実施していく。	【成果指標】教職員 若プロなど校内研修会が充実している	A:100% B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満	
				【成果指標】教職員 学年や分掌等の取組について、教職員間の共通理解が図られていた	A:100% B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満	
	② 業務の効率化の取組の推進 ・ 業務内容の見直しと、業務量の平準化 ・ ICTの効果的な活用	校長 教頭 教務	・ 校務分掌の役割分担の平準化から時間外勤務時間の減少だけでなく、業務の効率化を図る。 ・ 学校コーディネーターやスクールサポーターへ専属の役割を与えた。特に施設管理面や会計関係を担うこととした。	【成果指標】教職員 定時退校時刻や定時退校日を意識して業務を進めるなど、働き方改革に努めている	A:100% B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満	
				【成果指標】教職員 ICT環境の整備で、業務が効率化されている	A:100% B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満	